

第2期丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略の進捗状況について

1 令和2年度地方創生推進プロジェクト

プロジェクト1														
地域とともに出産や成長を喜ぶ仕組みや産前産後のサポートの充実														
第2期創生総合戦略	施策	施策1-1「結婚・出産・子育ての希望が叶うまちをつくる」												
	指標 (KPI)	① 市の子育て支援・環境に満足している子育て世代の割合 (H30) 49.0% → (R6) 59.0%												
		② ミルネの子育て世代包括支援センター事業利用件数 (H30) 490件 → (R6) 550件												
手段	妊娠の希望を叶える支援や産前産後のサポートを充実させるとともに、地域を挙げて、新しい命の誕生をお祝いしていることを子育て世代が実感できる取組を増やす。													
Plan (計画) 令和2年度	<p>妊娠・出産・子育てを地域から応援されていると実感でき、この地域で子育てしたいと感じてもらう取組について、母親・赤ちゃんとの関りが深い健康福祉部健康課を中心とした地方創生推進プロジェクトとして、庁内検討委員会を設置し、検討を行いました。</p> <p>検討過程では、創生総合戦略推進本部会議にて全庁的に協議したほか、創生総合戦略推進委員会で外部有識者の視点からご意見をいただきました。また、市民アンケートを実施し、子育て世代を中心とした市民の声を反映しました。</p>													
Do (実施) 令和3年度	<p>ハッピーバース応援ギフト事業 12,414千円</p> <p>妊娠・出産・子育てを応援されていると実感でき、この地域で子育てしたいと感じてもらう取組として、妊娠期から2歳ごろまでに利用していただけるものを贈ります。</p> <p>特に出産時のギフトは、「丹波市に生まれてくれてありがとう」の思いを込め、「丹波で生まれてよかった」と思っただけできるよう、できるだけ市内産品を活用し、市内事業所の活性化と、地域をあげて子育て応援する機運の醸成を図ります。</p> <p>●事業実施状況(12月末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>ギフト</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>妊娠届出時</td> <td>葉酸サプリメント</td> <td>279</td> </tr> <tr> <td>出生届出時</td> <td>燃やすごみ袋小 4巻</td> <td>241</td> </tr> <tr> <td>赤ちゃん訪問時</td> <td>木育製品(カタログ)他市内産品</td> <td>229</td> </tr> </tbody> </table>		時期	ギフト	件数	妊娠届出時	葉酸サプリメント	279	出生届出時	燃やすごみ袋小 4巻	241	赤ちゃん訪問時	木育製品(カタログ)他市内産品	229
時期	ギフト	件数												
妊娠届出時	葉酸サプリメント	279												
出生届出時	燃やすごみ袋小 4巻	241												
赤ちゃん訪問時	木育製品(カタログ)他市内産品	229												

4か月児健診時	燃やすごみ袋小6巻他液体ミルク等	268
10か月児相談時	燃やすごみ袋小 8巻	284
1歳6か月児健診時		
1歳6か月児健診時	燃やすごみ袋小 6巻	277

妊娠確定前診察費への助成 4,000 千円

従来の妊婦健康診査費の対象にならない妊娠確定に至る診察費を助成することにより、すべての妊娠期における経済的な支援を実現し、子育てに優しいまち丹波市を推進します。

市内唯一の分娩取扱い機関である県立丹波医療センター初診時の選定療養費分をこの助成事業で補い、受診しやすい環境を整えます。

●事業実施状況

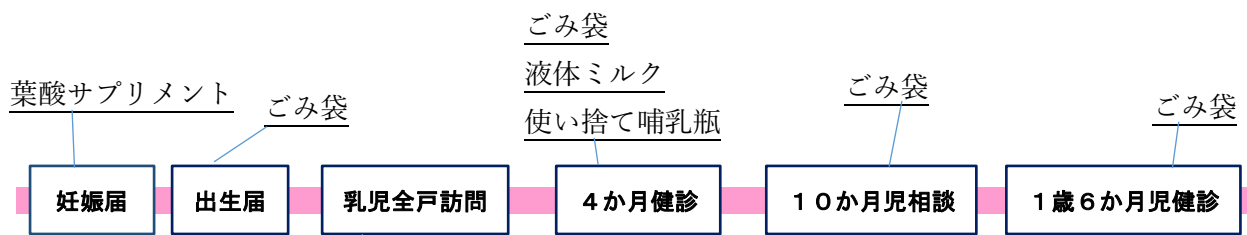
12月末 168 件の申請 平均 6,703 円 (1,000 円～10,000 円)
 ※妊娠届出時に同時に申請される方が多く、届出時に申請されない場合は、情報提供、確認を行っています。

産前産後サポートの充実 1,533 千円

妊産婦が抱える悩みや不安、心身の不調に対し、専門職による相談・支援を行い、不安の軽減・解消を図ります。

●事業実施状況

12月末で 85 名の方に利用いただき、同時期で昨年度実績と同程度の利用をしていただいています。



- ちーたんバッグ
- お祝いメッセージ
- 赤飯レトルト
- 木のおもちゃカタログ
- 赤ちゃん番茶
- にんじんジュース
- フェイシャルパック



ハッピーバースパック イメージ

プロジェクト2		
子育て世代のニーズに適う公園の整備に向けた公園整備方針の策定		
第2期創生総合戦略	施策	施策1-2「みんなで子育てを応援するまちをつくる」
	指標 (KPI)	① 地域全体で子育てを支えていると感じている市民の割合 (H30) 46.7% → (R6) 53.0%
		② ワーク・ライフ・バランスが取れていると感じている市民の割合 (H30) 43.7% → (R6) 63.0%
手段	子どもにとって、本市で暮らす豊かさ（自然体験・遊び、心地の良い場）が実感できる場（まちのサードプレイス）を充実させる。	
Plan（計画） 令和2年度	<p>人口減少に対する子育て支援・地域活性化策として、また、観光・交流の賑わい拠点づくりとして、市内公園の充実を図るため、地方創生推進プロジェクトとして、それぞれの公園の特色を活かした整備について検討を行いました。</p> <p>策定過程では、創生総合戦略推進本部・関係課長会議で内部協議を進めたほか、創生総合戦略推進委員会で外部有識者の視点から協議いただきました。市民アンケート、市議会総務文教常任委員会・議員総会など、各方面から意見をいただき、策定しました。</p>	
Do（実施） 令和3年度	<p><u>都市・自然環境を活かした公園整備方針に基づく公園整備</u></p> <p>令和3年2月に策定した方針に基づき市内公園の整備を進めます。</p> <p>●事業実施状況（12月末時点）</p> <p><u>氷上さくら公園</u>（展望台の改修工事 5,000千円）</p> <p>ウッドショックによる丹波市産材の価格高騰により、市場の動向をみる必要があることから、年度内の実施を見送りました。令和4年度事業として実施を予定しております。</p> <p><u>道の駅丹波おばあちゃんの里</u>（遊具の設置 27,827千円）</p> <p>「ユニバーサルデザイン遊具1基」と「恐竜をモチーフにした遊具1基」を設置。本年6月には整備工事請負契約を締結し、今年度中に設置を終える予定としています。</p> <p><u>山南中央公園</u>（基本計画の策定 10,000千円）</p> <p>山南中央公園機能移転の基本計画の策定に向けて、「導入施設や整備水準」、「校舎の有効活用や薬草薬樹公園との一体的活用」、「経済性を考慮した施設計画」などの検討を進めています。</p> <p><u>青垣児童公園</u>（遊具更新工事 2,924千円）</p> <p>公園内の老朽化した遊具2基を撤去し、新たに複合遊具1基と安全サイン1基を設置しました。</p>	

	<p> 今後は、隣接する青垣住民センター別館跡地を利用した拡張工事を計画しており、令和5年度の完成を予定しています。 </p> <p> <u>青垣総合運動公園</u>（遊具新設工事 3,059千円） </p> <p> 子ども向け遊具がなかったことから、公園機能の強化を図るため、複合遊具1基を新設しました。 </p> <p> <u>春日総合運動公園</u>（遊具更新工事 4,201千円） </p> <p> 出会いの広場内の老朽化した遊具2基の更新を行っており、来年1月末までの完成を予定しています。 </p> <p> 今後、ふれあい広場の遊具についても更新を計画しています。 </p> <p> <u>三ツ塚児童公園</u>（遊具修繕工事 1,814千円） </p> <p> 木製の大型複合遊具が部分的に老朽化していることから、年度内に修繕を実施する予定です。 </p>
--	--

プロジェクト3		
仕事と子育ての両立を応援する取組の検討（病児保育のあり方）		
第2期創生総合戦略	施策	施策2-2「多様な働き方・働きやすい職場をつくる」
	指標 (KPI)	① 病児保育のサービス拠点数 (H30) 5 拠点 → (R6) 14 拠点 ② 年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると感じている市民の割合 (H30) 21.2% → (R6) 25.0%
	手段	子育て世代が働きやすい環境をつくるため、認定こども園全園の病児保育実施と、小児科診療と連携した病児保育拠点の整備を実現する。
Plan (計画) 令和2年度	<p>ひとり親家庭、核家族が増えていくなか、仕事と子育ての両立を支援するため、病児の受入れ体制を整備します。</p> <p>現在、市内の認定こども園 13 園中、病児保育(体調不良時型)は 11 園が実施していますが、インフルエンザ等に罹患した病児を受け入れる体制は整っておりません。</p> <p>検討経過では、他市の状況調査を行ったほか、8月には子育て世代を中心としたアンケートを実施しました。</p>	
Do (実施) 令和3年度	<p>病児保育室の開所 (12,280 千円)</p> <p>対 象：乳幼児から小学6年生までの子ども 内 容：疾病にかかり集団生活が困難と判断された子どもを一時的に預かる病児保育室を開所する。</p> <p>開始予定：令和4年3月開設予定 定 員：3名 職員配置：看護師1名、保育士1名</p> <p>●事業実施状況</p> <p>社会福祉法人との協議が整わず、開始時期は未定となっておりますが、NPO 法人により年度内に病後児保育室の運営を開始。</p> <p>病児保育(体調不良児対応型)の充実 (58,206 千円)</p> <p>対象施設：13 か所 (令和4年1月から2か所増設予定) 全ての認定こども園 13 園において看護師を配置。</p> <p>内 容：通園児が体調不良になった時、保護者が迎えに来るまでの間、保護者が安心して預ける環境を整えることが出来る。</p>	

	<p>●事業実施状況</p> <p>市内認定こども園 13 園中、11 園において実施しておりました病児保育（体調不良児対応型）を令和 4 年 1 月から 13 園全てにおいて実施予定です。</p>
--	--

2 令和3年度地方創生推進プロジェクト

プロジェクト4		
子育て世代が働きやすい環境整備の検討		
第2期創生総合戦略	施策	施策2-2「多様な働き方・働きやすい職場をつくる」
	指標 (KPI)	① 病児保育のサービス拠点数 (H30) 5 拠点 → (R6) 14 拠点 ② 年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると感じている市民の割合 (H30) 21.2% → (R6) 25.0%
	手段 (※)	子育て世代が働きやすい環境をつくるため、認定こども園全園の病児保育実施と、小児科診療と連携した病児保育拠点の整備を実現するとともに、子育て世代が安心して子どもを産み育てられると実感できるよう、市内企業に働きかけ、子育てしやすい就労環境づくりを進める。
Plan (計画) 令和3年度	<p>令和2年度プロジェクト「病児保育のあり方検討」の協議の中で、推進委員会等から「病気の時には本当は子どものそばに居たい、本当は無理して保育園に預けたいとは思っていないことを理解してほしい」という意見がありました。</p> <p>子育て世代が出産や子育てを行う中で、事業所の人手不足などにより、産前・産後に休暇を取得しにくかったり、子どもの学校行事や急な病気の時などに休みにくかったりすることがあります。また、休暇を取りやすいようパート勤務など低賃金な職種を選ぶことにより、不安定な就労・生活環境になることから、第2子、3子の出産が難しいといった現状があります。</p> <p>そこで、市内企業への訪問や働きかけにより、子育てしやすい就労環境づくりに取組みます。</p>	
Do (実施) 令和4年度	<p>① 中小企業支援ハンドブック（事業者向け）別冊として子育て支援に特化したリーフレットをつくる</p> <p>② 企業ガイドブック（求職者向け）に「子育てしやすい企業」として表示する（令和4年度引き続き検討）</p> <p>③ 国制度で職業生活と家庭生活が両立できる“職場環境づくり”の支援として、「両立支援等助成金」がある。（事業主に支給）この補助を受けている事業者に対して市からの上乗せ補助を支給しているが、新たな取組みとして「両立支援等助成金」に必要な手続きに係る費用（社会保険労務士への費用）の助成を加える</p>	

プロジェクト5		
ふるさと移住の促進に向けた移住施策の再構築		
第2期創生総合戦略	施策	施策3-1「人と人のつながりをつくる」
	指標 (KPI)	① 相談窓口を利用して移住した年間世帯数 (H30) 29世帯 → (R6) 30世帯
		② ふるさと住民の累計登録者数 (H30) 393人 → (R6) 1,000人
	手段1	住まい・仕事・コミュニティ・交流など移住に必要な情報がまとまった窓口や、お試し移住やお試しテレワークなどのニーズと、民泊などのコミュニティ型宿泊支援とのマッチングを図る仕組みづくりなど、移住支援の充実を図る。
手段2	子育て世代の移住や新婚世帯の定住など、ライフステージの移住・定住支障事例を集め、それに対応した子育て世代移住支援パッケージをつくる。	
Plan (計画) 令和3年度	<p>丹波市の人口減少対策にとって、10代後半から20代前半にかけての大きな人口移動がポイントであり、この年代のライフステージのニーズをきめ細やかに捉えたいうえで、分野横断的に施策展開する必要性が高まっています。</p> <p>「子どもたちに帰ってこいよと言えらまちづくり」に向け、関係課長等で構成するふるさと移住促進施策検討会を設置し、住まい・仕事・地域活性・観光・教育などの分野を横断的に捉えた移住促進施策について検討を進めます。検討に当たっては、人口移動調査を実施し、その属性や移動時の状況を明らかにし、移住促進施策に役立てます。</p> <p>検討経過</p> <p>令和3年5月20日 第1回ふるさと移住促進施策検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口移動に係る転入出者アンケート調査について検討するとともに、方針の構成及び施策体系について協議 <p>令和3年6月7日～6月20日 人口移動調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の転入出者を対象に、無作為抽出した転入出者合計1,000人に対しアンケート調査を実施 <p>令和3年7月15日 第2回ふるさと移住促進施策検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口移動調査結果の概要を説明するとともに、ふるさと移住促進方針の構成(案)や各施策の取組(案)について協議 <p>令和3年9月13日 総務文教常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方創生推進プロジェクトの進捗を報告し、参考資料と 	

	<p>して人口移動調査結果報告書を提出</p> <p>令和3年9月30日 第3回ふるさと移住促進施策検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと移住促進方針（案）の内容を検討 <p>令和3年11月1日 第2回丹（まごころ）の里創生推進本部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波市ふるさと移住促進方針（案）の中間報告をとりまとめ <p>令和3年12月16日 総務文教常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波市ふるさと移住促進方針の検討状況について中間報告
<p>Do（実施） 令和4年度</p>	<p>令和4年度は、本方針に基づき、次の各取組を実施します。また、実施に向け、分野横断的な調整や進捗管理が必要な取組は、令和4年度地方創生推進プロジェクトとして調整・実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アパート版住まいるバンクの実施 ・お試し移住支援制度の導入 ・企業ガイドブックのWebブック化 ・Bizステーションたんばの機能拡充 ・歌道谷公共用多目的用地の事業用地化 ・新規学卒者のふるさと就職奨励 ・移住者に向けた福祉・医療人材確保対策の充実 ・情報発信の強化による意欲ある農業人材の確保 ・子育てに関するポータルサイトのリニューアル ・多様な働き方支援や働きやすい職場づくりの促進（プロジェクト4の再掲） ・地域資源を活用した特徴のある公園整備（プロジェクト2の再掲） ・若者の定住応援 ・地域おこし協力隊の活用 ・市内での大学の活動強化

今後のスケジュール

- 1/21（金） 創生総合戦略推進委員会
- 2/4（金） 創生推進本部会議
- 3月中旬 総務文教常任委員会報告

3 令和4年度地方創生推進プロジェクト（案）

プロジェクト6		
地域を支える福祉人材の確保・育成・定着に向けた方策の検討		
第2期創生総合戦略	施策	施策2-1「魅力的なしごとをつくる」
	指標 (KPI)	① Bizステーションたんばの相談件数 (H30) — → (R6) 300件/年
		②丹波地域就農支援センター相談者数（本市分） (H30) 17人/年 → (R6) 20人/年
手段 (※)	キャリア教育を実施し、子ども・学生時代に市内企業を知ること で、市内での就職について考える機会をつくるとともに、不足す る地域産業の担い手を確保・育成する。	
Plan（計画） 令和4年度	<p>全国的に人口減少社会がもたらす現役世代の減少に伴って、 今後は高齢者介護や保育等の福祉人材の確保が非常に困難な状 況となります。</p> <p>市内では人材が確保できないことから一部のサービスにおい て利用を制限せざるを得ない状況も生じています。</p> <p>市では、福祉人材確保対策として3つの補助制度を実施して きたが、制度を活用した人材確保実績が少なく、その効果も顕著 に現れていない現状にあります。</p> <p>福祉人材の確保は、経営基盤の「要」であり、特に介護や保育 等の分野を中心に量的拡大が求められているため、現行の補助 制度を拡充するとともに、市内の女性や有資格者に限定するこ となく、市外からのU・Iターン者や無資格者を含めて、本市の 福祉を支えるために必要な人材の「確保」「育成」「定着」に向 けて、実効性があり、かつ移住定住施策と連携しながら丹波市版の 取組方策の検討を進めます。</p> <p>【分野横断的な共通の課題】 介護及び障がいに係る施設や事業所の安定的な運営 認定こども園及びアフタースクールの安定的な運営 移住定住の促進、「丹（まごころ）ワークサポートたんば」と の連携</p>	

プロジェクト7		
小・中学校と高校とのふるさと教育の連携と丹波市ならではのフィールドを活かした教育の実践		
第2期創生総合戦略	施策	施策3-1「人と人のつながりをつくる」
	指標 (KPI)	① 相談窓口を利用して移住した年間世帯数 (H30) 29世帯 → (R6) 30世帯
		② ふるさと住民の累計登録者数 (H30) 393人 → (R6) 1,000人
手段4	高等学校と、地域課題を一緒に見つめ、解決策を導き出す教育活動を協働とともに、本市で過ごす子ども時代を通じて本市に愛着と誇りを持つ取組を進める。	
Plan (計画) 令和4年度	<p>市内小学校では、コロナ禍においても、学校支援コーディネーターを中心に地域人材による学習や生活への積極的な支援を推進し、「たんばふるさと学」を通じて、子どもたちのふるさと丹波を愛する意識の醸成を目指しています。</p> <p>市内7中学校では、キャリア教育の一環として、地域資源を活用したアントレプレナーシップ教育を実施しており、「起業家精神」「起業家的資質・能力」の育成を目指しています。また、市内県立3高等学校は、それぞれの特色や規模に応じて地域課題等を題材にした探究活動を実施し、取組の成果等を学校内外に向けて発信しています。これらの取組が深い学びにつながるよう、義務教育期間から高校への連続した学びについて検討を行います。また、丹波竜化石・水分れ・氷上回廊など丹波市ならではの地域の教育資源や人材を活かした学びの充実により、地域に誇りを持ち、将来丹波市を離れてもふるさとと関わりたいと、ふるさと丹波市への愛着を育む取組について検討します。</p>	